

# 中央アルプス 中岳等 山旅報告書

日程：2023年〔令和5年〕10月4日～7日

参加者：三栗・神田・岡村真由美・岡村繁雄

コース：4日 小倉駅〔新幹線〕⇒ 岐阜羽島駅〔レンタカー〕⇒ 駒ヶ根すずらん岨〔泊〕

5日 すずらん岨 → 駒ヶ池〔バス〕⇒ しらび平ロープウェイ駅 ⇒ 千畳敷ロープウェイ頂上駅  
→ 宝剣山荘〔泊〕

6日 宝剣山荘 → 中岳 → 駒ヶ岳山頂山荘 先で撤退 → 中岳西側トラバースルート → 宝剣山荘  
→ 剣ヶ池 → 千畳敷ロープウェイ頂上駅 ⇒ しらび平ロープウェイ駅〔バス〕⇒ 駒ヶ池  
→ すずらん岨 ⇒ 昼神温泉阿智川〔泊〕

7日 昼神温泉阿智川 ⇒ 富士見台高原ロープウェイ ⇒ 展望台リフト ⇒ 富士見台高原バス  
⇒ 萬岳荘 → 富士見台高原 → 萬岳荘 ⇒ 富士見台高原バス ⇒ 展望台リフト  
⇒ ペアリフト ⇒ 富士見台高原ロープウェイ ⇒ 犬山城 ⇒ 岐阜羽島駅〔新幹線〕⇒ 小倉駅

4日 早太郎温泉駒ヶ根すずらん岨に宿泊。

5日 紅葉の時期で観光客が多いとの情報のため、朝1番のロープウェイでスムーズに千畳敷ロープウェイ頂上駅へ到着。ガスで見通しはきかなかった。

八丁坂の途中で一時ガスが切れ千畳敷の状況が確認できたが、紅葉は、あまりよくない感じであった。



八丁坂より後方 千畳敷ロープウェイ頂上駅



宝剣山荘に到着



宝剣山荘での夕食

宝剣山荘に9時過ぎに到着、強風で天候が悪かったため10時頃から宴会となる。

途中で中原さんら3名のパーティーも小屋に到着。

昼過ぎ、別々に2名の低体温症の登山者が担ぎ込まれ、その内1名は、状況が悪かったのかレスキューが担いで下山して行ったようである。

6日 天候が冬型となり気温も下がり小屋の周辺は真っ白で、風が強いものの時折ガスが切れて見通しがきく状況であったため、木曾駒ヶ岳を目指して出発



宝剣山荘を出発〔6時20分〕



天狗山荘を通過



前方 中岳



中岳の登り

中岳山頂にて



中岳山頂より  
駒ヶ岳山頂  
山荘を望む

中岳より駒ヶ岳  
山頂山荘への  
下り





後方 中岳



中岳西側のトラバースルートで強風の中、雷鳥に遭遇

予想より気温が低くなりメンバーの防寒にやや不安があったため、無理をせず駒ヶ岳山頂山荘の先までで、撤退することとした



中岳西側のトラバースルート



中岳への登山道との合流点に到着

昨夜からの寒波の影響で、霜が降りて解けない状況の中の山行となった。  
もし積雪があり凍ってしまうとアイゼンが必要になる。  
今回は、当然宝剣岳は、パスして早々に下山した。



霜が解けていない八丁坂を、慎重に下山

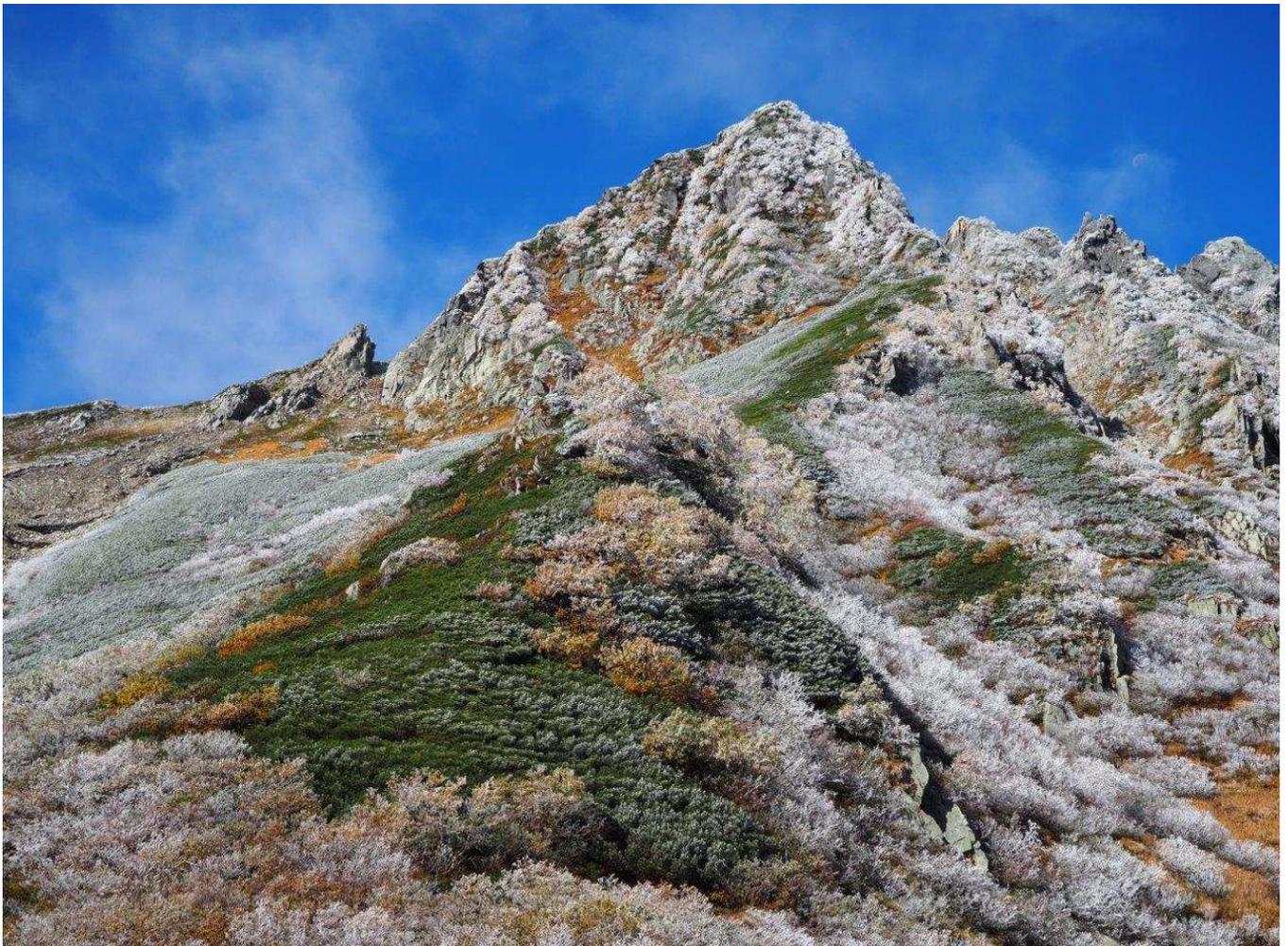


千畳敷ロープウェイ頂上駅の展望デッキにて

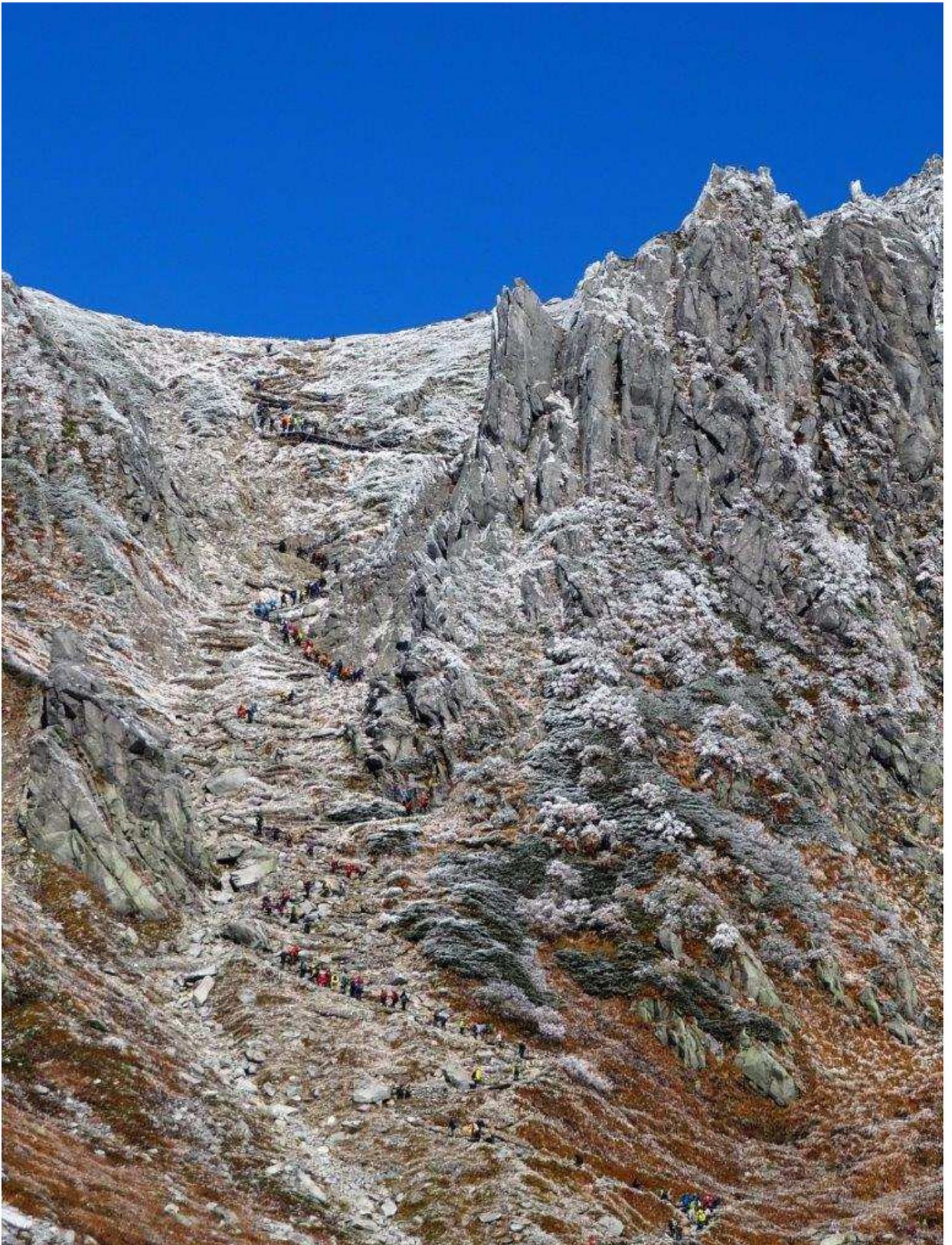
6日（金曜日）10時頃には天候が回復して、千畳敷は多くの観光客と登山者でごった返していた。明日、明後日の土日は、観光客ですごい混雑が予想される。



千畳敷ロープウェイ頂上駅の展望デッキより千畳敷を望む



千畳敷ロープウェイ頂上駅の展望デッキより宝剣岳を望む〔望遠〕



千畳敷ロープウェイ頂上駅の展望デッキより登山者の列が続く八丁坂を望む〔望遠〕

今回、もっと気温が低ければ全く正月の頃と変わらない状況で、予想以上に厳しい気象状況であった。また、それゆえに女性軍は、冬山の状況を満喫できたのではないかと思う。下山後、ガスが取れた千畳敷は、素晴らしい絶景であった。天候に恵まれタイミングが良ければ、手軽にこの風景を体感できるのであれば、観光客で混雑するのも納得がいく。

7日 昼神温泉 湯元ホテル 阿智川に宿泊後、車ですぐ近くに位置する「ヘブンズそのほら」富士見台高原に立ち寄りこととした。ロープウェイと展望リフトを利用して展望台まで行き、そこから富士見台高原バスで萬岳荘へ移動。そこから富士見台高原〔1,739m〕まで片道30~40分のハイキングコースを往復した。



「ヘブンズそのほら」パンフレットより抜粋



ロープウェイを降りてすぐの天空の散歩道にて



萬岳荘にて  
(展望台 ⇒ 萬岳荘 富士見台高原バス)



ロープウェイを降りてすぐの天空の散歩道にて



センターハウス前の満点の星、観賞用の  
チェアで一休み



ペアーリフトで下山



右後方が富士見台高原のピーク [1,735m]





富士見台高原ヒークより御嶽山を望む〔望遠〕



富士見台高原〔1,739m〕

富士見台高原〔1,739m〕からは、南アルプスや御嶽山等で一望できるハイキングコースである。

「ヘブンズそのはら」は、山岳リゾートで、冬はスキー場。宿から近くだったため、たまたま立ち寄ってみたが、気候の良い季節にゆっくりと改めて訪れてみたい。

北九州山岳同好会「嵐」

*Reported by S.Okamura Photo presented by S.Okamura*